



私は昨年、北海道経済の活性化策にかんする調査研究の委託を社団法人北方圏センターから受け、カナダ・バンクーバー島のコモックスバレーに住むマイケル・リントン氏を訪れた。地域通貨の可能性を探り、地域交換取引制度 (Local Exchange Trading System: LETS) の生みの親であるリントン氏から直に話を聞くためである。

現行の通貨制度では、発券は中央銀行が独占している。これに対し地域通貨は、人々の自発的な意思決定により発行され、地域経済を部分的に自律化する手段を提供するものだ。

投機から地域経済を守る

昨今の事例から明らかによろしく、金融や経済のグローバル化は、実体経済に大きな負の影響を与え、コミュニティの存立基盤を揺り崩してしまっている。いま求められているのは、地域経済を資本のグローバル化や投機化がもたらす災禍から守り、その安定的で自律的な成長のための方法を指し示すことであろう。地域通貨は、グローバル化が強いる画一化に抗して、地域経済が多様な発展を遂

カナダにみる「地域通貨」制度の可能性

「わが町」の自律的發展支える

けるよう補助するものなのである。リントン氏は一九八三年に人口六万人のコモックスバレーでLETSを創設した。厳しいリセッション(景気後退)の時代で、当時、カナダではプライムレートが一五%を上回り、失業者の生活は困窮し、中小企業も干上がってしまった。こうした金詰まり状況でLETSは、地域通貨により財・サービスを取引するシステムとして生まれた。

LETSの参加者はまず自分名義

現金化は認められていない。参加者が三人の場合を考えよう。太郎は芝刈りサービスを十グリーンドルで花子に提供し、花子は守ササービスを二十グリーンドルで次郎に提供し、最後に、次郎は古本を十五グリーンドルで太郎に提供する。太郎は芝刈りサービスの代金である十グリーンドルを花子から受け取り、古本の代金である十五グリーンドル

現在、コモックスバレーのLETSには四百五十の口座が存在し、そのうち百口座はときどき、五十口座は定期的に、十口座が頻りに利用されている。現在の総取引量は一月あたり二、三千グリーンドルで、量的には決して多いとはいえない。盛況時の八〇年代半ばには、六百口座、年間取引量が三十万グリーンドルというときもあったという。

リントン氏は、八〇年代後半からカナダ、イギリス、オーストラリア

LETSは、参加者間の信頼や、倫理的・道徳的規範に基盤をおく交換制度なのである。

信用創造が発生せず、利子も付かないことで、資本蓄積や投機的取引はシャットアウトされる。国民通貨が同時に使用される場合でも、地域通貨は、為替や景気の急激な変動から、地域経済を部分的に保護することが出来る。また、人々の貨幣保有動機として、地域経済の安定と成長、循環型経済の希求など従来顧みられなかった経済的動機や、地域へのコミットメント、隣人愛、相互扶助といった非経済的動機をも含む可能性を開いてくれる。

基盤は参加者間の信頼や倫理観 文化的メディアの性格も帯びる



西部 忠
北海道大学助教授 (経済学)

にしべ・まこと 1962年福井県生まれ。カナダ・ヨーク大学大学院修士課程、東京大学大学院博士課程修了。著書に『市場像の系譜学』。

の口座を開設し、ゼロ勘定から出発する。参加者は自らが提供できる財やサービスをその価格を自録に載せる。次に、必要な財やサービスを見つけ、価格などの条件を交渉してから地域通貨で代金を支払う。「コモックスバレー」の地域通貨はグリーンドルと呼ばれ、グリーンドルと現金であるカナダドルの交換比率は一対一と決められている。グリーンドル

を次郎に支払うので、彼の勘定残高は五グリーンドルの赤字になる。同じように、花子の勘定残高は十グリーンドルの黒字、次郎の勘定残高は五グリーンドルの赤字になる。三人の黒字と赤字の合計はゼロである。このようにLETSにおける黒字と赤字は常に相殺しあっているため、信用創造は発生しない。利子もつかない。

LETSを詳しく紹介するキャンペーンを展開してきた。世界的には、少なくとも百以上、おそろしく二十以上の地域で既にLETSが開発されている。各地域のLETSはそれぞれ固有の地域貨幣を持っており、その規模もさまざまだ。

LETSでは、各参加者が何かを買いたい、赤字を生みだすことに貨幣を発行すると考えることができる。しかし、赤字を返済する義務はないため、参加者間には金銭貸借のような信用関係が生じるわけではない。

黒字や赤字は、債権や債務ではない。赤字はLETSへのコミットメント(関与)の大きさを表しており、システムに対する将来の貢献を示している。参加者は財やサービスを提供して、自分の赤字を一定限度以下に保つことを期待されている。

価値・思想伝えるネット

「地域」という言葉を、共通の意見、関心、価値を持つ人々の間に成立する文化的な意味と拡張解釈するならば、LETSの可能性はさらに広がるであろう。例えば、地球環境問題に関心を持つ参加者が利用する地域通貨が流通するようになれば、エコロジーという主題の近傍に参加者のゆるやかなネットワークが自動的に形成される。

そうすると、地域通貨は経済的メディアとして機能するだけでなく、価値や思想といった意味を表現、伝達し、参加を自発的に組織する文化的メディアの性格も帯びることになる。このことは男女同権化、高齢化、貧困化など、他のあらゆる問題に対してもあてはまる。様々な問題をめぐる複数の地域通貨が織りなすネットワーク複合体は、多様で創造的な社会を生み出す可能性を秘めているのだ。